

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 立命館守山中学校・高等学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 524-8577

滋賀県守山市三宅町 250 番地

E-mail \_\_\_\_\_

Website http://www.ritsumei.ac.jp/mrc/

幼児児童生徒数 男子 784 名 女子 612 名 合計 1,396 名

幼児・児童・生徒の年齢 13 歳～ 18 歳

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校の学校教育目標は「立命館学園の一員としてのアイデンティティを持ち、『自由と清新』『平和と民主主義』を理解し、国際社会や地域社会で活躍できる高い能力や倫理観、市民道徳を有する国際人を育成する」である。今年度は、次年度以降のカリキュラム改革をするにあたり、「総合的な学習の時間」の再編を図る中で、教科目標を「『探究すること』の意義や手法を学ぶとともに、自ら課題を設定し、問題の解決に向けた研究活動を通じて、地域社会における信頼と連携、および国際社会における理解と共生の発展に向けた貢献心と行動力を養う」と定めた。そして可能な部分から、教科及び課外活動において、ESD の課題に照らしてその目標や意味を明らかにしながら取り組んだ。

今年度はこれまでの教育実践を踏まえ、大きく①SSH（スーパー・サイエンス・ハイスクール）に係わる活動、②教科教育、③国際交流活動、④ユネスコ委員会活動の4つの分野で取り組んだ。ここでは各分野におけるその一例をあげる。

### ① SSH（スーパー・サイエンス・ハイスクール）としての活動

高校3年生のAdv.理系クラスでは、「SSH 課題研究」と称して1年間の研究活動を行い、課題発見、仮説設定、実験計画立案、実験・調査、データ分析、文献調査、考察の7項目のスキルを伸長することを目指した。本校のサイエンスアカデミックプレゼンテーション（成果発表会）においてその成果を英語で発表した。

### ② 教科教育

高校1年生の現代社会では、「よく生きる」ということを学ぶ中で、他者とともに生きることを考えた。その成果をJICA高校生エッセイコンテストの作品として出品し、2名が受賞した。また、これまでの実績も評価され、特別学校賞も受賞した。

### ③ 国際交流活動

昨年度、ポーランド・ドイツピーススタディツアーを実施した際に交流のあったサンスター日本語学校の学生を本校に招き、学校間交流を行った。ポーランドからの生徒7名は、本校中・高の生徒宅に9日間のホームステイを行い、授業に参加するなどして、互いの交流と学びを深めた。また、京都研修（清水寺・嵐山・金閣寺）や立命館小学校の訪問なども実施した。

### ④ ユネスコ委員会活動

12月に大阪で開催されたワン・ワールド・フェスティバル for Youth という高校生の国際協力 EXPO に実行委員長、副実行委員長として参加し、企画・運営に努めた。また、スマートフォンが国際社会に及ぼす影響に関するワークショップも本校企画で実施した。



サンスター日本語学校との交流活動



ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 開会式

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校の教育活動の中で、育てたい資質・能力・態度の一つに【Global Competency：異なる文化を尊重し、国際的課題に対して建設的な議論や協働活動ができる】を定めている。この能力が特定の教科や活動のみならず、様々な場面において伸長できるよう、教科指導の在り方や横断的な学びの工夫について、現在、ワーキンググループを設置して検討しているところである。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

今年度より、ユネスコスクール担当教員を教職大学院に院生として現職派遣し、理論と実践の往還ができるようにした。この現職院生の研究テーマを「ユネスコスクールとして学校づくり」とし、大学院での学びを現場に還元できるようにしている。現在、この教員を中心に、学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める方法を検討しているところである。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

内部評価は、研究開発部というサイエンス・グローバル・キャリアの3分野からなる分掌が、年度ごとに取り組みを総括する中で行っている。生徒にも活動ごとに目標達成のアンケート評価を実施している。課題としては、教員のねらいが必ずしも生徒に届いていない部分があるということである。これに関しては、どの取り組みも「イベント化」しないよう、教員の事前アナウンスの仕方や準備段階での声かけなどを考えていく必要がある。一方成果としては、海外との交流が多いため“世界”に向かうことへの躊躇がなく、常に地球市民として意識した行動ができてきていることだと考える。

外部評価については、ユネスコスクールとして個別行っているものはないが、SSH申請の中で、同時に行われているものと考えている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

・ワン・ワールド・フェスティバル for Youth (高校生のための国際協力 EXPO@大阪) で、本校生徒が実行委員長・副委員長を務め、ESD 推進校としての役割を果たした。また、授業での学びをポスターセッションで報告することで、その成果を発信した。  
・立命館大学教職大学院で開講されている「国際教育の理論と実践」という授業のフィールドワークを本校で実施し、「ユネスコスクールに学ぶ:ESD とは何か?」というタイトルで、活動成果を報告した。これにより、国際教育に関心を持つ教職志望の院生が増えた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成 (地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など) (200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

・JICA や様々な NPO・NGO の第一線で活躍している方、企業の CSR で働く方を講師として招き、多様な国際協力の在り方を考える「国際協力」という授業を実施している。  
・高校生は 8 コースに分かれ、テーマ別の海外研修を実施している。その際、多くの学外団体と連携を図っている (例: バンコクコース; 国際 NGO ハビタット・フォー・ヒューマニティなど)

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成 (200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

・ワン・ワールド・フェスティバル for Youth に参加しているユネスコスクールと一緒にイベントを企画・実施するなどの交流がある。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき (特に強調したい) 内容 (例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化) (200字程度)

・本校は高校生が全員参加の海外研修が実施されている。「本物の体験」に学ぶことの意義は深く、生徒の成長も大きい。今後はこの海外研修のテーマごとに SDGs（持続可能な開発のための目標）を設定し、自分たちの学びが世界とつながっていることをより意識できるようにしていきたいと考えている。

・ユネスコ委員会に所属している生徒が、高校生のための国際協力 EXPO ワン・ワールド・フェスティバル for Youth の実行委員長・副委員長を務めるなど、国際協力を積極的な生徒を輩出することができている。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400 字程度）

次年度より、SSH の第 3 期第 1 年次がスタートする。「中高大院連携で作る校種・教科横断型科学探究ストリームによる課題設定力の育成」をテーマとし、さまざまな教育活動を展開していくこととなる。この SSH としての取り組みと、ユネスコスクールとしての取り組みをどう融合していくかが、大きな課題となる。

新たにカリキュラム設定された総合的な学習（探究）の時間は、この融合性を考えた場合、もっとも要となる科目である。1 年次は Thinking Design（知の探究）で探究学習の基礎を学び、2 年次には文系・理系がそれぞれ分かれて、卒業論文の準備、課題研究の準備としてのテーマ設定をしていく。そして 3 年次に実際の研究を各生徒が進めていく。

しかし、探究活動は設定された時間の中だけで完結するものではない。教科の学びはもちろんのこと、課外活動や特別活動での取り組みなど、様々な要素を取り込む中で実現されていく。そうしたときに、校種や教科の橋渡しとなるのが「持続可能な社会をつくるために」という ESD の包括的な概念となろう。SDGs を用いることで、これまでよりも横断的な学びがしやすくなったと考えるので、それぞれの取り組みがバラバラの“点”の状態とならないよう、教員間の連携も図っていきたいと考える。